

平成20年度

病害虫発生予察情報 第18号

特殊報第1号

北海道病害虫防除所 平成20年10月22日

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/boujoshou/>

連絡先：予察科 Tel.0123(89)2080, Fax. 0123(89)2082

道央以北の広い地域で、広範な作物を加害する ヘリクスジノメイガの幼虫が多発生

平成20年8月中旬から9月にかけて、石狩・空知・後志・上川・留萌・網走・宗谷支庁管内で、これまで国内の農作物に被害を認めていない鱗翅目幼虫による作物加害が確認された。加害幼虫を飼育して得られた羽化成虫は、独立行政法人農業環境技術研究所の吉松慎一博士によりヘリクスジノメイガ *Margaritia sticticalis* (Linnaeus) (別名：*Loxostege sticticalis* (Linnaeus)) であると同定された。本種は、ロシアや中国など広い地域において移動性の害虫として知られ、牧草をはじめとする様々な作物に被害を与える事例が報告されている。これまで国内における作物加害事例は認められていなかったが、本年、幼虫による加害が道央以北の広い範囲で認められたことから、春季以降に成虫が大量に飛来したものと推測される。本種は局所的に高密度で発生する傾向が認められるため、来春以降の発生に注意を要する。

1. 発生の経過

本年8月中旬以降、石狩・空知・後志・上川・留萌・網走・宗谷支庁管内の広い地域において、ヘリクスジノメイガによる被害が各種作物で確認された。幼虫による被害発生に先立ち、8月上旬から道内の広い範囲で本種成虫が多数確認されており、長沼町の予察灯では8月4日に誘殺を認めて以降、8月9日の175頭をピークに8月30日まで合計530頭が誘殺された。

幼虫は各種作物を加害後、表層5cm以内の比較的浅い土中で土繭をつくることが確認されており、その中で幼虫態で越冬する可能性がある。しかし、幼虫が植物上で確認されなくなった9月中旬以降も、少数ではあるが成虫が確認されていることから、一部の幼虫は土繭内で蛹化し、羽化したものと推測される。

10月上旬に、北海道病害虫防除所および、道内の各農業試験場・関係普及センターが上

川・留萌・網走・宗谷支庁管内の被害多発ほ場・草地で土繭数を調査した結果、50×50cm中にある土繭数が10を超えるほ場は少なかった。また、現地調査により得られた土繭内部で死亡している幼虫も認められた。なお、これらほ場について融雪後に再度調査を行う予定である。

2. 形態

(1)成虫：体長は約15mm、開張20～25mmの小型種である。前翅は褐色で、前縁中央付近には黄褐色台形の斑紋があり、外縁に沿って黄褐色の斑紋が一行配置する。後翅は前翅よりもやや淡い褐色である。触角は雌雄共に糸状である。

(2)幼虫：老齢幼虫は体長20～25mm程度である。体色は黒色に近い暗緑色で、暗色化の程度や各部にある乳白色斑の大きさは個体により異なる。頭部は光沢のある黒色で、すじ状の白色斑紋を伴う。胸部、腹部は気門に沿って側方に乳白色の太いすじ、背面の正中線付近に乳白色の細い縦すじを1対もち、背側面は刺毛周辺などに乳白色の細かい不規則な模様がある。背面の刺毛基部は黒くこぶ状に隆起し、やや長めの刺毛が散生する。胸脚は黒色で白斑を伴う。

(3)土繭・蛹：土繭は長紡錘形で長さ2～3cm、幅0.5cm程度である。繭内の蛹は褐色で体長約10mm、尾端に4対の刺毛を伴う。

(4)類似種との識別：暗緑色の老齢幼虫は高密度時のアワヨトウ中齢幼虫に似る。アワヨトウ幼虫は主にイネ科植物の葉を食害するのに対し、本種幼虫は主にアルファルファやアカザなどの双子葉植物を食害する。また、本種幼虫は前後に素早く歩行し、刺激に対して敏捷に動いて葉から脱落する点、老齢幼虫でも25mm程度にしか生長しないこと等によりアワヨトウとの識別は容易である。

3. 被害植物

作物：大豆、小豆、てんさい、にんじん、アスパラガス、かぼちゃ、ピーマン、コスモス、他

牧草：アカクローバー、シロクローバー、アルファルファ、チモシー、デントコーン

雑草：アカザ、ヨモギ、タデ、イタドリ、ノボロギク、スベリヒユ、タンポポ、他
アカザを好食している事例が多い

4. 加害状況

幼虫は、葉面を削り取るように食害する。そのため、被害葉は網目状に穴が開くか白色の表皮が残る。動きは活発で、素早く前後に歩行すると共に、刺激を与えると敏捷に動いて葉から脱落する。糸を吐いて葉をつづり合わせる事例も観察される。本年（8月）、空知支庁管内で2haのかぼちゃほ場の全体で発生したとの報告がある一方、上川・留萌支庁管内の一部大豆ほ場では、ほ場周辺の雑草を食べ尽くして移動・侵入した幼虫により、周縁部の大豆が激しい食害を受けた。特に高密度で発生したほ場では作物の茎葉が激しく食害さ

れ、上川支庁管内のにんじんほ場では茎葉がほうき状になるほどの被害が認められた。

5. 当面の対応

本虫の生態については、不明な点があるが、土中で土繭を作ることが確認されているため、越冬の可能性がある。また、越冬が可能な場合は、春先に土繭から羽化した成虫が、翌年の被害に繋がることも考えられるので、発生が確認された際には、病害虫防除所、農業試験場並びに農業改良普及センターに連絡すること。



写真1 . ヘリキスジノメイガ成虫



写真2 . ヘリキスジノメイガ幼虫



写真3 . 土繭



写真4 . 大豆ほ場周縁部における被害